

Fibro Scan Note

ファイブロスキャンノート



実際のLSM測定値と肝線維化の程度

E (kPa)	IGR
MEDIAN	0.1
7.1	IGR/med.
	1%

実際の測定画像。LSM値が中央値 (MEDIAN) で表示されます。7.1 kPaが検査結果です。

LSMの測定値と肝線維化の程度との関連ですが、以下の数値を目安とします。

肝臓の線維化ステージ	LSM
F0 (線維化なし)	以下
F1 (線維化軽度)	2.5 kPa
F2 (線維化中程度)	3.8 kPa
F3 (線維化高度)	11.8 kPa
F4 (肝硬変)	11.9 kPa 以上

見本

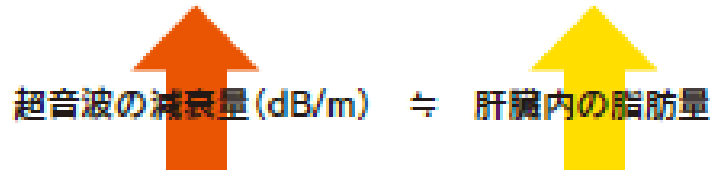
(Hsuら. Clinical Gastroenterology and Hepatology. 2018より引用)

例えばLSMが5.0 kPaであった場合、線維化は無く肝生検ではF0相当、LSMが15 kPaであった場合、肝硬変で、肝生検ではF4相当ある可能性が高いと推測されます。

LSM測定時間は5分程度で短時間です。また、軽い振動を感じるだけで痛みや出血の心配もありません。繰り返しの測定が可能であり、かつ再現性に優れています。

* 肝臓の強い炎症、心臓の機能低下に伴う肝臓のうっ血などの、肝臓の線維化以外の状態がLSMに影響することがあります。

CAPの測定は肝臓内の超音波の減衰量を測定しdB/m (デシベルパーメートル)で測定いたします。この超音波の減衰値と肝臓に沈着した脂肪の量は、顕著に相関しており、肝臓内に沈着した脂肪量が多ければ多いほど、超音波の減衰量 dB/m (CAPの値)が高くなります。



実際の測定値と脂肪沈着量

CAPの測定値と脂肪沈着量との関連ですが、以下の数値を目安といたします。

肝臓の脂肪沈着	CAP測定値
ほぼ無し	248
少しあり	248
中くらい	268
多い	288

(Karasu, J Hepatol. 2017;66:1022-1030より引用)

例えばCAPが220 dB/mの場合、肝生検では肝臓の脂肪がほとんど無い状態、CAPが320 dB/mの場合、肝臓の脂肪化が非常に多い状態と推測されます。

CAPによる肝脂肪化測定ですが、超音波を用いるため体にまったく副作用はありません。利点として優れた定量性、繰り返しの測定が可能、再現性に優れているなどがあります。

9 あなたのS波フィブロスキャンの結果
10 あなたのS波フィブロスキャンの結果

見本

測定結果をスケールに書き込みましょう

日付	M/XL	硬さ (LSM) の結果 (kPa)					肝脂肪 (CAP) の結果 (dB/m)			
年 / 月 / 日	M · XL	6.2	7.6	8.8	11.8		248	267	288	
		F0	F1	F2	F3	F4	S0	S1	S2	S3
		正常	軽度	中等度	高度	肝硬変疑い	ほぼ無し	軽度	中等度	高度
年 / 月 / 日	M · XL	6.2	7.6	8.8	11.8		248	267	288	
		F0	F1	F2	F3	F4	S0	S1	S2	S3
		正常	軽度	中等度	高度	肝硬変疑い	ほぼ無し	軽度	中等度	高度
年 / 月 / 日	M · XL	6.2	7.6	8.8	11.8		248	267	288	
		F0	F1	F2	F3	F4	S0	S1	S2	S3
		正常	軽度	中等度	高度	肝硬変疑い	ほぼ無し	軽度	中等度	高度
年 / 月 / 日	M · XL	6.2	7.6	8.8	11.8		248	267	288	
		F0	F1	F2	F3	F4	S0	S1	S2	S3
		正常	軽度	中等度	高度	肝硬変疑い	ほぼ無し	軽度	中等度	高度
年 / 月 / 日	M · XL	6.2	7.6	8.8	11.8		248	267	288	
		F0	F1	F2	F3	F4	S0	S1	S2	S3
		正常	軽度	中等度	高度	肝硬変疑い	ほぼ無し	軽度	中等度	高度

測定する機器によって結果の解釈が異なることがありますので、詳細は主治医に確認してください。